

顔学オンラインサロン報告 第13回～第22回

「顔学オンラインサロン」は「リモート時代」に対応しZoomを活用して学会のさまざまな活動状況を会員及び一般の方々にも広く知っていただこうと、2020年5月から第1、第3火曜日の夜に開催してきました。ここでは第13回から22回までの話題と提供者を、学会ホームページからご紹介します。
<https://www.jface.jp/jp/online>

- 第13回 11月17日(火)
話題：美人画と多様性
提供者：日本顔学会理事補佐・美人画研究会主宰 松永 伸子氏
美人画研究会・化粧文化研究者ネットワーク 城戸崎 雅崇氏
美人画研究会・尚美学園大学・似顔絵チャンピオン 齋藤 忍氏
- 第14回 12月1日(火)
話題：顔認知の多様性
提供者：早稲田大学・新学術領域研究「顔身体学」 渡邊 克己氏
- 第15回 12月15日(火)
話題：白くなることは美しくなることなのか？
提供者：國學院大学文学部・新学術領域研究「顔身体学」 小手川 正二郎氏

松永さんから11月の「美人画研究会」で有色女性の美人画を描こうというテーマを選んだ経緯について紹介され、「画くこと=知ること」という観点から多様な美しさを発見したことなど、美人画と多様性についての問題提起をされました。城戸崎からは「黒人女性の光と影」として、さまざまな分野で活躍してきた黒人女性について「黒人」と「女性」という二重の差別についても触れながら紹介しました。齋藤さんからは、ダ・ヴィンチの名画の女性を黒人にしたらというテーマでCGを使っただけの興味深い実践の結果が披露されました。

- 第16回 2021年1月19日(火)
話題：顔学会の25周年を振り返る(その1) ～学会設立、シンポジウム顔、大顔展～
提供者：原島 博氏、菅沼 薫氏、馬場 悠男氏
- 第17回 2月2日(火)
話題：顔学会の25周年を振り返る(その2) ～学会20周年記念事業、顔の百科事典、ビジュアル顔の大研究～
提供者：輿水 大和氏、原島 博氏、馬場 悠男氏
- 第18回 2月16日(火)
話題：平成美容開花
提供者：ポーラ文化研究所 富澤 洋子氏
- 第19回 3月2日(火)
話題：顔学会25周年シンポジウムの楽しみ方
提供者：高野 ルリ子氏(副実行委員長) 齋藤 忍氏(似顔絵Room) 塚本 陽子氏(化粧文化Room) 瀬尾 昌孝氏(若手交流会Room) 松永 伸子氏(美人画研究会Room)
- 第20回 3月16日(火)
話題：ロボットの顔
提供者：早稲田大学名誉教授、日本顔学会副会長 橋本 周司氏
- 第21回 4月6日(火)
話題：脳科学者、心理学者からみた顔学の進歩
提供者：生理学研究所 柿木 隆介氏 中央大学 山口 真美氏
- 第22回 4月20日(火)
話題：人のかたち～異人をどう表現し、また表現されたのか～
提供者：東京藝術大学 日本顔学会理事 宮永 美知代氏 (城戸崎 雅崇)

編集委員会だより

当75号は、編集委員に加わった4名の新メンバー(牛山、光廣、山南、新木)と共に、更に久しぶりの図書紹介も含めたラインナップでお届けしています。



2/22日に編集委員会がオンライン&オープン開催し、編集委員以外も参加可能な点から、11名ものメンバーが集まりました。顔学会は、出版の「顔の百科事典」の厚みからも分かる通り、多岐にわたる専門分野の先生が在籍されるアカデミックな場から一般まで幅広い層に門扉が開かれています。会議内では、皆様と学会を結ぶニュースレターの在り方について多様な視点から議論が活発に交わされ、外部者の視点も前向きに考慮する場が印象的でした。今後も皆様楽しんで頂ける内容をお届けしたくリンクエト等をお待ちしています。(新木 美代)



J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニュースレター 75号

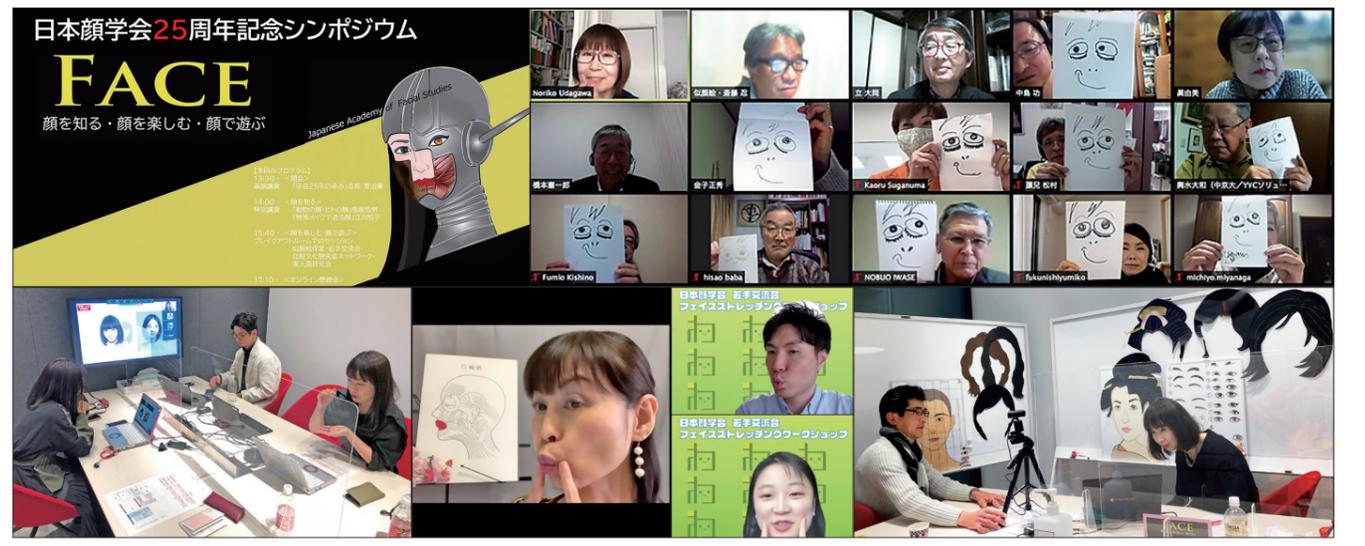


26 MAY 2021 Vol.75 <http://www.jface.jp>

Contents

- P1～2. 日本顔学会25周年記念シンポジウム開催報告
- P3. 第22回若手交流会報告/化粧文化研究者ネットワーク研究会報告/図書紹介
- P4. 顔学オンラインサロン報告 第13回～第22回/編集委員会だより

日本顔学会25周年記念シンポジウム開催報告



当初の計画から約1年余りの延期となっていた25周年記念シンポジウム。形式をオンラインとし、3/6(土)に無事に開催することができました。参加登録は308名、会員は約半数でした。部分的な参加もみられ、当日、同時にオンラインに入っていた最大数は209名でした。

開会式

総司会会の向井香瑛さんの第一声でオープニング。続く原島博実行委員長の開会挨拶では、今日が創立日3/7の1日前、つまり学会25歳台であること、オンサイトと同じプログラムにこだわったことが述べられました。

基調講演

菅沼薫会長による「顔学会25周年の歩み」。設立のきっかけとなった軽井沢での研究会や、趣向を凝らし、時には参加者が仮装をして変身を楽しんだシンポジウムなども紹介されました。20分で25年が丸わかりとなる濃密な内容でした。



菅沼 薫会長

特別講演〈顔を知る〉

一題目は馬場悠男先生による「動物の顔・ヒトの顔」。顔を家に見立てて構造化し、一般の陸上脊椎動物は1階は口腔、2

階以上が鼻から上となるが、ヒトはもっと複雑で3階に眼窩、4階が頭蓋腔となる、など慧眼もののお話で顔学の醍醐味を伝えていただきました。

続いて、江川悦子先生による「特殊メイクで造る顔」。特殊メイクのピフォア、アフターを舞台裏を交え、数々の実例を紹介していただきました。材料や技術の進化、役者さんの負担を少しでも軽くするよう高い技術をスピーディーに提供するなど、作り手の立場のお話も聴衆を惹きつけました。



馬場 悠男先生



江川 悦子先生

第2部〈顔を楽しむ・顔で遊ぶ〉

Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用し、4つのセッションをルームに分かれて同時開催しました。各主催陣からのレポートでお伝えします。

●似顔絵Room

前半は「圧巻☆有名人の似顔絵作品展」、5人の似顔絵作家が今回のために描き下ろした似顔絵作品を紹介しました。
★のQRコードよりホームページをご覧ください!



後半は『超カンタン有名人の似顔絵オンライン教室』、参加された皆さんに似顔絵作家が実際に描いている動画を参考に描いていただきました。完成作品は画面に映して品評会。感想を伺ったり似顔絵作家たちがコメントしたりしました。そのあと、似顔絵作家らが描いた同人物の似顔絵を映し、今度は参加された皆さんに批評していただきました。最後はかけ足になってしまいましたが、合計6人の有名人の似顔絵が完成しました。当日教室で映した参考動画と各似顔絵作家の作品も上記ホームページに追加してあります。



今回は簡単に描けるよう、単純な図形に分解して絵描き歌風にし、描き方を特別にアレンジしました。二重丸を2つ横並びで描きます、それらの真ん中を貫く棒を一本描いて、、、とお手本も参考にしながら描いていくことで、初めての方でも思いのほか似せることができました。「楽しかった!」「またやってみよう!」などのコメントもいただきました。参加された皆さん、ありがとうございました。(斎藤 忍)

●若手交流会Room

日本顔学会若手交流会からは「若手交流会5年の軌跡」、「フェイスストレッチングワークショップ」と題した2つの企画を出展しました。

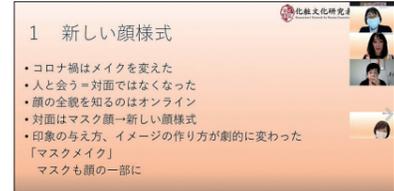


当会は2012年に発足して、今年で10年目になります。5年前のフォーラム顔学で発足当初5年目までの振り返りを実施しましたが、今回はそれからさらに活動の幅を広げている現在の若手交流会を知っていただこうと、「若手交流会5年の軌跡」と題した直近5年間の活動紹介を行いました。当時の写真や、過去の企画で講師を務めた先生方からもその場でコメントをいただき、和気あいあいとした活動の様子を体験いただけたのではないかと思います。

「フェイスストレッチングワークショップ」では、プロの講師として活動しているメンバーを中心として「マスク生活を笑顔で乗り切ろう!」を合言葉に、マスクの下で休みがちになっている表情筋のエクササイズをワークショップ形式で実施しました。生徒役のメンバーに対する講師からのアドバイスをふんだんに設けることで、オンライン・短時間開催ではありましたが、初めて体験する方にも効果的なエクササイズを実施していただけたよう、工夫しました。(徐 脱哲)

●化粧文化研究者ネットワークRoom

前半は、マスク時代の化粧：今だからこそ「顔の上半分」が重要、と題し、資生堂ヘアメイクアップアーティストによるレクチャー。神宮司芳子さんは、女性アイドルグループperumeを例に前髪による印象の違いを解説。前髪の有無でなく、眉や顔の見せ方・隠し方が印象演出のポイントとのこと。中村潤さんは、顔学会会員おなじみの若手の先生4名の顔写真で眉を加



工し、男性版顔立ちマップに基づく印象変化を実演。マスク生活でも、顔のパーツを見せる、隠す、調整する、彩る事で変化を楽しめると気づきました。

後半のテーマは、マスク生活一言：「これからの顔とマスク」。マスクは私達の顔/化粧をどの様に変えたか?を語り合いました。「ファンデはフォーマルに限定。眼鏡アレンジを楽しめる。前髪が伸びたら眉を書かない。」等、生の声が届きました。

最後にコロナ禍が化粧文化にもたらした事を3点に集約。①新しい顔様式 ②化粧観のリセット ③化粧のジェンダーレス化。ジェンダーを問わず、化粧する/しない自由を選び取れる社会になれば、と、総括。顔学会の皆様との討議で、互いに知見を広められた機会でした。(塚本 陽子・山南 春奈)

●美人画研究会Room

パート1は、「顔で遊ぶ」をテーマにクリエイティブ班の松永と東観崎嬢さんが「美人画福笑い」をやりました。松永は、参加者に眉・目・鼻・口の顔パーツを選んでもらい、土台の顔にマグネット



で貼りました。位置や髪型などをオンラインでやり取りして、参加者のお好みの顔ができあがると、「~に似ている」「~風になった」などの声が聞けました。髪型が、美人に見える配置に大きく関わることもわかりました。東観崎嬢さんは標準美人顔、大人顔、子供顔などを説明し、パーツを微妙に動かすだけで雰囲気異なる美人を作って見せてくれました。参加者とのやりとりで、顔に似合う髪型、髪型に似合う雰囲気を探りました。

パート2は、顔学会の方々にも美人画や浮世絵について知ってもらおう企画で、アカデミック班の畑江麻里さんの「浮世絵ミニ講座」と、松永作成の「美人画モーフィング」でした。畑江さんは、浮世絵が共同作業で作る木版画であり、アニメとの共通点としては美少女が登場することなどを挙げて、楽しく話してくれました。途中参加の方でも楽しめるように、それぞれ2回繰り返したので駆け足でしたが、わかりやすく勉強になったという感想もいただきました。(松永 伸子)

→詳細は美人画研究会HPへ <https://bijingakenkyukai.jimdofree.com/>



◆懇親会

鈴木健嗣理事の司会により、にぎやかにスタート。実行委員から一言ずつ挨拶をさせていただきました。画面越しながらも顔を合わせての一時は、ディスタンスを感じさせず、一つ屋根の下に集ったかのような時間でした。途中、オンライン上のトラブルもあり、ご迷惑をおかけしたところもございましたが、みなさまのご協力により、乗り切ることができました。ご参加ならびに運営にご協力くださったみなさまに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。顔学会、万歳! (副実行委員長 高野 ルリ子)



第22回若手交流会報告

2020年11月15日、第22回の交流会もオンラインで開催されました。今回はOLMデジタルの前島謙宣さんを講師に迎え、「最新顔画像生成技術のご紹介とその応用先の議論」についてご講演をいただきました。CG専門の前島さんは、以前のCG技術による顔合成が不自然になりがちでしたが、現在の技術では違和感なく、顔から全身まで構築できると話しました。「Light Stage」や「インパースレンダリング」などを活用したリアルな照明効果の付与と再現方法から、Generative Adversarial Network (GAN) に代表される機械学習を用いたCG生成技術まで多岐にわたりご紹介いただきました。その中でもMichiGANは髪型や髪の流れ・色などを条件付けることで、直感的な操作でハイクオリティな髪型画像を生成可能で、非常に大きなインパクトがありました。講演後の交流会では、Zoomミーティングのブレイクアウトルームを使って、自由な歓談の時間を設けました。参加者は二つのグループに分かれて、それぞれに興味のある話題について情報交換を行いました。



した。初参加の方から、普段何気なく見ている映像の中でもCG技術が知れることや最新の技術勉強は今後にも活用したい、またこの技術をZoomに活用できたら一日すっぴんでいられて嬉しいなど感想を頂きました。このように、初めてご参加の方でも気軽に交流できるし、お互いの研究と顔学の勉強に役立っています。顔学に興味を持つ方がジョインして、今後交流会のますますの活躍を期待しています。(劉 沫好)

化粧文化研究者ネットワーク研究会報告

2020年度はコロナ禍のため、3月の予定を延期しました。その後はオンラインを活用し、研究会を再開しました。以下、過去2回分をダイジェストでご紹介します。詳しいレポートは化粧文化研究者ネットワークのHPに掲載していますので、ぜひご覧ください。http://keshobunka.com/

■第54回「美、化粧、そして『子どもらしさ』: 文献調査と卒業論文から

日時: 2020年8月29日(土)

この回はオンライン開催の試行を兼ねて、世話人との関係者で小規模に行いました。

はじめに、(株)資生堂 (S/PARKミュージアム) の櫻井英里氏による「インターネット検索による直近5年の化粧文化トピックス」。Google Scholarで検索ワードを「化粧&文化&メイク」とし、抽出した146論文をもとに考察。研究対象の変化とし、美類については「マストアイテムからプラスワンアイテムへ」、メディアは「TV/雑誌からSNS、YouTubeへ」、化粧演出は「女性性からジェンダーレスへ」の三点が指摘されました。

続いて、都留文科大学4年、當山りせ氏による卒業論文「現代社会で求められる子供らしさとは何か~化粧の低年齢化に関する議論から考える」から、「子どもらしさ」とは「純粋さ」なのか、化粧は「他者」を意識した自己形成なのか、さらに校則の問題など、社会的な課題が指摘されました。

全体討議では、「化粧」の語が持つ意味が喚起するバイアスや、「化粧教育」の必要性など活発な意見が交わされました。



■第55回「たかが体臭・されど体臭!!」

日時: 2020年12月5日(土)

この回はハイブリッド形式で行い、オンライン16名、オンライン22名の参加者で実施しました。講師に神田不二宏さん(武庫川女子大学薬学部客員教授)を迎え、資生堂で研究員をしていた経験から、体臭の原因物質の究明から製品開発までの過程を、化学的な理論をたいへんわかりやすく解説しながら、発表して下さいました。研究においてはニオイの元を集めることも必要で、同僚に協力してもらった秘話などもご紹介があり、ロジカルにかつ熱く追求する研究者魂に触れた一時でした。

今後は7/3に読書会を、9/14にはプリクラ機で著名な株式会社フリーさんのご協力を得、現地から中継し、オンライン開催を計画しています。HP等でご案内申し上げますので、ぜひご参加ください。(高野 ルリ子)

図書紹介



顔身体学ハンドブック
河野 哲也 [ほか] 編
ISBN-10: 4130111493
ISBN-13: 978-4130111492
発売: 2021年3月
定価: 13,200円
発行所: 東京大学出版会



ビジュアル 顔の大研究
こどもくらぶ 編
馬場 悠男 [ほか] 監修
ISBN-10: 4621305573
ISBN-13: 978-4621305577
発売: 2020年12月
定価: 4,620円
発行所: 丸善出版



平成美容開花
一平成から令和へ、美容の軌跡30年
ポーラ文化研究所 編著
ISBN-10: 4894780119
ISBN-13: 978-4894780118
発売: 2020年10月
定価: 1,650円
発行所: ポーラ文化研究所